

このコロナ禍で私たちのように海外で医療貢献活動を行っている団体は、全く活動が停止した状態のままです。本当に中国発の感染症には腹が立ちます。その当事者(中国)はこの混乱に乗じて世界覇権に邁進し、全く反省がないのもこの国の嫌らしさ、怖さを禁じ得ません。我々が仕事場としているラオスはカンボジアと同様、中国の巨額な債務を介した隷属化の罠に嵌っています。本当に心配です。今回は OISDE のラオス事務所長から最新のコロナ情報をお届けします。

コロナ禍でのラオスの現在

OISDE ラオス事務所長の持田でございます。ラオス駐在8年目になりますが、今は早くコロナの治療薬ができないものかと、祈る日々を過ごしています。

ラオスでは4月1日からロックダウンが開始されました。6月2日より緩和され、緩和されたロックダウンが8月31日まで延長されることが、7月30日にラオス政府より発表されました。7月18日に約2ヶ月ぶりの新規感染者1人が見つかり、緩和の1ヶ月延長が決定されました。同感染者は、大阪→東京→インチョン→ビエンチャンと移動してきた韓国人ですが、関西電力の社員だったようです。緩和される前のロックダウン中は、首都ビエンチャン内もそうですが、特に県境の警備が厳しく、県を跨いだ移動も禁止されておりました。

毎日テレビで、どここの国が1日数十人、数百人と言っている中、7月31日時点で、ラオスにおける感染者数は累計で20名(死者0)です。早い時期からのロックダウンの導入が功を奏した、ラオス料理がラオス人に免疫を与えてくれた、ラオスの暑い気候がコロナウィルスを死滅させている、など色々な意見がラオス国内で飛び交っています。ラオス料理の免疫力説は、以外と多くの方が信じています。ラオスの感染者が少ないことについて、タイの有名なキャスターがテレビで、「ラオスの感染者発見能力(PCR検査能力)は極端に低いから感染者数が少ない」とコメントしたところ、ラオス政府は激怒し、在タイのラオス大使館に同キャスターを呼び寄せて謝罪させた、という話もありました。個人的な意見ですが、あながち的外れていない気はします。7月31日現在、街中でマスクをしている人はほとんど見られません。まるで、何事もなかったように、もう何も起こらないかのように。これで収束してくれることを祈るばかりです。

